

項目名称	No. 40		橋梁長寿命化の方策の推進									
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組									
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」									
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進									
所管課	建設部 道路維持課											
現状と課題	市が管理する橋梁1,160橋について、橋梁長寿命化修繕計画策定事業に基づき、修繕計画を策定しており、この計画に基づき、優先度・緊急度の高い橋梁から、概ね10か年を目安に修繕工事を行っている。											
取組内容	1 橋梁長寿命化修繕計画策定事業の推進(点検の実施、修繕計画の策定) 2 橋梁修繕詳細設計の委託(優先度、緊急度の高い橋梁を対象とした修繕詳細設計業務委託) 3 橋梁修繕工事の実施(前年度の修繕詳細設計に基づいた修繕工事の実施)											
達成目標	計画に沿った修繕工事の実施											
効果	予防保全型の補修により、維持管理に係るトータルコストが縮減できる											
指標			現状		中間年度		最終年度					
橋梁長寿命化の推進率(修繕工事を実施した割合)			目標値		13%		42%		44%			
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)		平成31年度 (2019年度)		平成32年度 (2020年度)		平成33年度 (2021年度)		平成34年度 (2022年度)	
1	橋梁長寿命化修繕計画策定事業の推進		計画		→		→		→		→	
2	橋梁修繕詳細設計の委託		計画		→		→		→		→	
3	橋梁修繕工事の実施		計画		→		→		→		→	
4			計画									
5			計画									
備考												

各年度取組実績					
30年度	中間取組状況	1 橋梁の定期点検は上半期に全て発注を行い、点検の結果もほぼ把握できている。9月に橋梁長寿命化計画の改訂業務を発注し、今年度中に業務を完了する見込み。 2 橋梁修繕詳細設計は上半期でほぼ発注済みである。 3 橋梁修繕工事についても、予算の状況を見ながら順次発注を行っている。			
	最終取組状況	1 183橋の橋梁点検を実施した。今年度で全ての橋梁の初回点検を完了した。平成31年度(2019年度)からは、2巡目の点検を実施する。 2 10橋の修繕詳細設計を実施した。平成31年度(2019年度)は、これらの橋梁について順次修繕工事を実施する。 3 8橋の修繕工事を完了した。平成31年度(2019年度)以降も継続的に修繕工事を進めていく。 4 平成30年度末(2018年度)で修繕を要する橋梁は58橋あり、そのうち21橋の修繕が完了している。(修繕率36.2%)			
	達成状況評価	○	評価理由及び次年度の取組予定	橋梁点検については、実施完了出来たが、修繕設計および工事については、想定より工事費が増額となった橋梁や、緊急的に対応を要する橋梁があったため、一部の橋梁について工事を実施することが出来なかった。次年度以降はこれらの橋梁の修繕工事を優先的に進めていく。	
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 -:中止				
	効果額(千円)	不要額	121,243	必要額	65,171
	効果額	56,072	内容・算出内訳	橋梁の修繕工事において、損傷箇所を全て修繕するのではなく、早期に対応すべき箇所及び、今後の劣化の要因となる箇所のみ限定して修繕に取り組んだ結果、左記のコストを改善することが出来た。	
[効果額]=不要額(取組により不要となった(生み出された)額)－必要額(取組に要した額)					

項目名称	No. 41		道路施設長寿命化の方策の推進				
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組				
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」				
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進				
所管課	建設部 道路維持課						
現状と課題	市が管理する道路施設であるトンネル5箇所、大型カルバート6箇所、横断歩道橋10橋、門型標識3基、土工構造物(法面)21箇所について、平成27年度末(2015年度末)に道路施設長寿命化修繕計画を策定。この計画に基づき、優先度・緊急度の高い施設から概ね10か年を目安に、詳細設計および修繕工事を行っていく。						
取組内容	1 道路施設長寿命化修繕計画策定事業の推進(点検の実施、修繕計画の策定) 2 道路施設修繕詳細設計の委託(優先度、緊急度が高い施設を対象とした修繕詳細設計業務委託) 3 道路施設修繕工事(前年度の修繕詳細設計に基づいた修繕工事の実施)						
達成目標	計画に沿った修繕工事の実施						
効果	予防保全型の補修により、維持管理に係るトータルコストが縮減できる						
指標			現状	中間年度	最終年度		
道路施設長寿命化の推進(老朽化した施設に対する修繕割合)			目標値	4%	13%	17%	
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)	平成33年度 (2021年度)	平成34年度 (2022年度)
1	道路施設長寿命化修繕計画策定事業の推進	計画			→		
2	道路施設修繕詳細設計の委託	計画	→	→	→	→	→
3	道路施設修繕工事の実施	計画	→	→	→	→	→
4		計画					
5		計画					
備考							

各年度取組実績				
30年度	中間取組状況	1 下半期に一部道路施設の点検業務の発注を予定している。 2 トンネル1箇所の修繕詳細設計業務を発注済みである。 3 歩道橋1箇所の修繕工事を発注済みである。		
	最終取組状況	1 今年度末に道路施設(横断歩道橋)の点検を実施した。 2 トンネル1箇所(南城寺トンネル)の詳細設計を実施した。 3 横断歩道橋1箇所(宮交シティ前歩道橋)の工事を実施中であり、平成31年(2019年)6月に完了見込み。		
	達成状況評価	○	評価理由及び次年度の取組予定	ほぼ計画通りに取り組みことが出来たが、一部次年度への繰越が発生した。
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 -:中止			
	効果額(千円)	不要額		内容・算出内訳
	必要額			
	効果額			
[効果額]=不要額(取組により不要となった(生み出された)額)-必要額(取組に要した額)				

項目名称	No. 42		舗装長寿命化の方策の推進			
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組			
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」			
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進			
所管課	建設部 道路維持課					
現状と課題	<p>市が管理する道路は、総延長約2,600kmあり、アスファルト舗装が約2,400km、コンクリート舗装が約50kmとなっている。建設後数十年経過している路線が多く、今後も損傷が進行することが予想されるため、長期的な視点に基づき、計画的な修繕を行っていくことが急務となっている。</p> <p>平成25年度(2013年度)に路面性状調査*を実施し、平成29年(2017年)3月に「宮崎市舗装長寿命化修繕計画」を策定した。計画に基づき予防保全型の修繕へ転換を図る。</p>					
取組内容	<p>1 修繕設計の実施(修繕を行う路線に対して詳細な調査の実施、修繕の範囲、工法等を検討)</p> <p>2 修繕工事の実施(修繕設計に基づき、修繕工事を実施)</p>					
達成目標	計画に沿った修繕工事の実施					
効果	予防保全型の補修により、維持管理に係るトータルコストが縮減できる					
指標			現状	中間年度	最終年度	
舗装長寿命化の推進率(修繕を必要とする路線に対する着手割合)		目標値	19%	69%	100%	
実施スケジュール		平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)	平成33年度 (2021年度)	平成34年度 (2022年度)
1 修繕詳細設計	計画	→	→	→	→	→
2 修繕工事	計画	→				
3	計画					
4	計画					
5	計画					
備考	* 路面の状態を調査し、路線ごとに損傷度合いの評価を実施した。					

各年度取組実績				
30年度	中間取組状況	1 下半期は、損傷の大きい路線について修繕設計(調査および工法の検討等)を実施する。 2 上半期で修繕工事の発注はほぼ完了している。		
	最終取組状況	1 予算の関係上、次年度に実施する。 2 損傷の大きい5路線について、修繕工事を実施した。		
	達成状況評価	○	評価理由及び次年度の取組予定	修繕工事は完了することが出来たが、次年度以降の着手路線の設計を実施することが出来なかったため。
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 -:中止			
	効果額 (千円)	不要額		内容・算出内訳
必要額				
効果額				
[効果額]=不要額(取組により不要となった(生み出された)額)－必要額(取組に要した額)				

項目名称	No. 43	長寿命化計画に基づいた公園施設の計画的な改築・更新の実施								
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組							
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」							
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進							
所管課	都市整備部 公園緑地課									
現状と課題	<p>本市は、現在505箇所(731.18ha)*1の公園を管理しているが、供用開始からかなりの年数が経過した公園が多く、公園内施設も老朽化や現在の基準に合わないものが多くなっている。</p> <p>長寿命化計画の対象だけでも294公園で34,816施設と膨大であり、これらの公園施設*2を一度に補修・更新を行うことは不可能であるため、平成28年度(2016年度)に策定した「宮崎市公園施設長寿命化計画(計画期間:平成28年度(2016年度)～平成37年度(2025年度))」に基づき、施設毎の緊急度、優先度に応じた計画的、効率的な施設の補修・更新を実施する必要がある。</p>									
取組内容	1 「宮崎市公園施設長寿命化計画」(計画期間:平成28年度(2016年度)～平成37年度(2025年度))と日常的な点検や維持管理の結果に基づいた公園施設の補修・更新									
達成目標	「宮崎市公園施設長寿命化計画」に基づいた公園施設の計画的な補修・更新を実施する									
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・市が管理する公園施設の安全性や機能が確保される ・効率的な維持管理が行われ、ライフサイクルコストの縮減が期待できる 									
指標		現状		中間年度		最終年度				
「宮崎市公園施設長寿命化計画」に基づいた補修・更新の実施率		目標値		2% (2016年度)		45%		67%		
実施スケジュール		平成30年度 (2018年度)		平成31年度 (2019年度)		平成32年度 (2020年度)		平成33年度 (2021年度)		平成34年度 (2022年度)
1	長寿命化計画に基づく公園施設の補修・更新	計画	→							
2		計画								
3		計画								
4		計画								
5		計画								
備考	<p>*1 公園数・面積・施設数は、長寿命化計画策定時(平成28年(2016年)7月現在)。</p> <p>*2 公園施設 公園施設とは、都市公園法第2条第2項各号に掲げる施設を指す。</p>									

各年度取組実績				
30年度	中間取組状況	長寿命化計画に基づき、施設毎の緊急度・優先度に応じた更新工事を計画的に行っている。		
	最終取組状況	長寿命化計画に基づき、施設毎の緊急度・優先度に応じた更新工事を実施した。		
	達成状況評価	◎	評価理由及び次年度の取組予定	長寿命化計画に基づき、計画的な更新工事を実施したことにより、公園施設の安全性・機能が確保された。次年度も長寿命化計画に基づき、実情に合った更新工事を計画的に実施する。
	△：準備、検討 ○：一部実施 ◎：実施完了 ー：中止			
	効果額 (千円)	不要額		内容・算出内訳
必要額				
効果額				
[効果額] = 不要額(取組により不要となった(生み出された)額) - 必要額(取組に要した額)				

項目名称	No. 44		学校施設における長寿命化計画の策定									
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組									
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」									
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進									
所管課	教育委員会 学校施設課											
現状と課題	<p>学校施設は、昭和40年代から50年代にかけての児童生徒急増期に校舎や屋内運動場等の建設を行ってきたため、建築後30年以上を経過した建物が全体棟数の7割を占めており、老朽化が進行している。</p> <p>老朽化が進行している施設を全て従来の改築の手法で対応していくのは財政面で相当な負担増になる。</p>											
取組内容	<p>定期点検や改修履歴による劣化、損傷等の老朽化の状況を把握し、優先順位付けや予算の平準化、トータルコストの縮減等を加えた「長寿命化計画*」を策定し、民間活力の導入検討と老朽化していく学校施設の機能維持に取り組む。</p> <p>1 長寿命化計画の策定 2 長寿命化計画に基づいた学校施設の機能維持、整備</p>											
達成目標	学校施設における長寿命化計画に基づく、施設の維持管理の実施											
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化が図られる ・学校施設全体を機能維持していく整備計画として活用できる 											
指標			現状		中間年度		最終年度					
長寿命化計画の策定			目標値		策定済							
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)		平成31年度 (2019年度)		平成32年度 (2020年度)		平成33年度 (2021年度)		平成34年度 (2022年度)	
1 長寿命化計画の策定		計画	→									
2 長寿命化計画に基づく施設の整備		計画			→							
3		計画										
4		計画										
5		計画										
備考		* 長寿命化計画 基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画。										

各年度取組実績				
30年度	中間取組状況	平成30年(2018年)8月末で各学校(小学校48校・中学校25校)の劣化度調査を完了。また、調査結果の取りまとめを9月末で完了した。		
	最終取組状況	2019年度から2027年度の9年間を計画期間とする「宮崎市学校施設長寿命化計画」を平成31年(2019年)3月に策定した。		
	達成状況評価	◎	評価理由及び次年度の取組予定	・今年度の目標であった長寿命化計画の策定は完了した。 ・次年度以降、長寿命化計画に沿った修繕等を推進することで、施設の機能維持や使用年数の延伸等を図る。
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 -:中止			
	効果額(千円)	不要額		内容・算出内訳
必要額				
効果額				
[効果額]=不要額(取組により不要となった(生み出された)額)-必要額(取組に要した額)				